

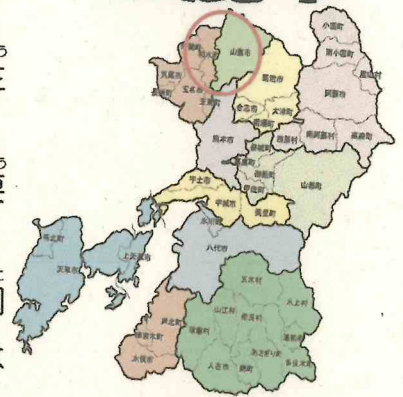


ふるさとくまさんデー



山鹿灯籠

やまがし 山鹿市



7月 今日の献立

こだい はん なつやさい
古代ご飯の夏野菜

カレー

ぎゅうにゅう やさい
牛乳 野菜のマリネ

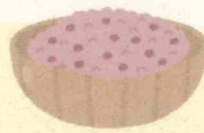
まっちゃ
抹茶ゼリーの

フルーツカクテル

やまがし くまもとけん ほくふ
山鹿市は、熊本県の北部に
い ち へいせい ねん がつ
位置しており、平成17年1月に
やまがし かほくまち きくかまち
山鹿市・鹿北町・菊鹿町・
かもとまち かおうまち がっぺい たんじょう
鹿本町・鹿央町が合併して誕生
しました。

けんりつそしやくこふんかん くにしていじゅうよう
県立装飾古墳館や国指定重要
ぶんかざい やちよざ れきし
文化財 八千代座などの歴史・
ぶんかいさん くに
文化遺産があります。また、国
していでんとうてきこうげいひん やまがとうろう
指定伝統的工芸品の山鹿灯籠は
かみ
紙だけでつくられています。

こだい はん 古代ご飯



こふん まち し やまがし こめ げんしゅ も くろまい
古墳の町として知られる山鹿市では、米の原種にルーツを持つ黒米や
あかまい みどりまい こだいまい さいばい う つ
赤米、緑米を古代米として栽培し、受け継いでいます。

はくまい こだいまい しょうりょうくわ むらさきいろ こだいまい はん こだい はん
白米に古代米を少量加えるだけで、あざやかな紫色の古代米ご飯（古代ご飯）が
できあがります。モチっとした食感も楽しいのですが、古代米の持つポリフェノール
えいよう くわ ひょう けんこう すぐ はん こだい よ しだい い
の栄養が加わり、美容と健康にも優れたご飯になります。古代と呼ばれる時代に生き
ひとひと はん た かんが
た人々が、このあざやかなご飯を食べていたと考えると、とてもロマンがありますね。

おお なが ちょうすけ 大長なす「長助」

か もと くまもとけんないち おおなが
JA鹿本は熊本県内一の「大長なす」
さんち おおなが いっぱんてき
産地です。大長なすは、一般的ななすの
ばい なが そだ おお
3倍ほどの長さに育ちます。大きいもの
なが
で長さ60センチにもなるそうです。

おおなが なまえ
そんな大長なすに名前があります。

か もとおおなが ぶかい
JA鹿本大長なす部会でネーミングを
ぼしゅう ちょうすけ
募集し「長助（ちょうすけ）」

なつ
と名付けられたそうです。

長助！

ちや お茶



やまがし たけ まけいこく やたにけいこく
山鹿市では岳間溪谷や矢谷溪谷などから
なが みず てきと しつと ひざ
流れるきれいな水や適度な湿度と日差しの
おかげでおいしいお茶ができます。その歴
し ふる え と しだいしよ き ねんごろ
史は古く、江戸時代初期（1630年頃）
ひ こほそかわはんしやだいはんしゅ ただとしこう やまが
に肥後細川藩初代藩主・忠利公が、山鹿を
おとす ほしわら はんしよ かほくまちほしわら
訪れたときに”星原の番所”（鹿北町星原
ちく の ちゃ たいへん き い
地区）で飲んだお茶を大変気に入りました。
そして、岳間のお茶は、年貢として納める献
じょうちゃ
上茶となったそうです。